

市民リポ一

鳥瀧 宏一
リポ一ター



(南ヶ丘)

米代東部森林管理署

を訪ねて

環境のキーワード「森林」

環境にやさしい街づくりが求められています。そのキーワードが森林ではないでしょうか。今大館では、コンポストセンターができた(株)エコリサイクルを始めとするリサイクル産業で街おこしを進めようとしています。

大館は昔から農林業と鉱業の街として発展してきました。現在はどの分野も大変厳しい状況にあると思いますが、農業、鉱業についてはさまざまなかたちで、産業として成り立っているところとして見えます。



しかし林業についてはどうなっているのでしょうか。廃プラスチックと廃木材の利用法が検討されていますが、肝心の森林につい

森林の形成には

長い年月と管理が必要

大館は面積の約七十%が森林で、そのうち約四十九%が国有林、残り約五十一%が市有林及び民有林です。森林を造る方法は人工造林と天然更新の二種類があります。人工造林は人が苗木をつくりそれを山に植えて育てる方法であり、天然更新は自然に落ちた種や木の切り株から芽生えた苗を利用して森林を造ります。天然だからといって人の手がからないわけではなく、さまざまに手をかけて管理しなければなりません。

国有林の管理は現在ほとんど民間に委託して行われています。杉は建築用材として利用できるようになるには、だいたい六十年ぐらしかかりますが、現在全体の七十二%が三十五年以下のまだ保育期にあります。つまり六十年以上の良質な木が少ないことになり、これは、戦後の復興期に木材の需要が一時的に増大したためです。全国的にもほぼ同じ傾向が見られます。ついでに言えば大館樹海ドームは大館近郊の六十年以上の杉を使って建てられたそうです。

低迷する木材価格

杉の価格(山の立木一亩当たりの価格)は昭和三十六年が九千八十一円に対して、平成十一年が八千九百九十一円となんと四十年前より安くなっています。価格は上がらずに、人件費は上昇しています。これでは林業が成り立つはずがありません。このことが外国産の木材におされている要因です。国産材の割合は昭和六十年には三十五%であったのが、最近は二十%前後と大変低くなっています。



森林を守ることは

暮らしを守ることに

「近くの山の木で家をつくる運動」というのがあります。本も出版されています。また「木の家に住むことを勉強する本」というのもあります。自然環境保護の気運が高まっているのが感じられます。森林は地球温暖化の抑制に大きな力を発揮したり、緑のダムとしての機能や土砂崩れを防いだり環境

を守るすぐれものです。なにより人間にとって安らぎを与えてくれます。

森林を守るためには、木の育成をするだけではなく、計画的に上手に木を使っていくことを考えなければなりません。つまり林業が成り立つことが必要です。国では、林業基本法を初めて改正し、さまざまな施策で森林を守っていくこととしています。



私たちはもう少し森林に目を向け、できる範囲で森林を守らなくてはいいけません。たとえば、下刈りのポランテアをしながら森林に親しむのはどうでしょうか。また、家や建物を建てる時、見た目のきれいな木や、手入れのしやすさばかりを考えてプリントされたような建材を使うのではなく、本物の木を使っていくとか。そのぶん価格が高くなりますが発想を変えたシンプルな造りにして、コストを抑えることもできます。森林を守ることは、結局は私たち自身の暮らしを守ることに繋がると思います。